

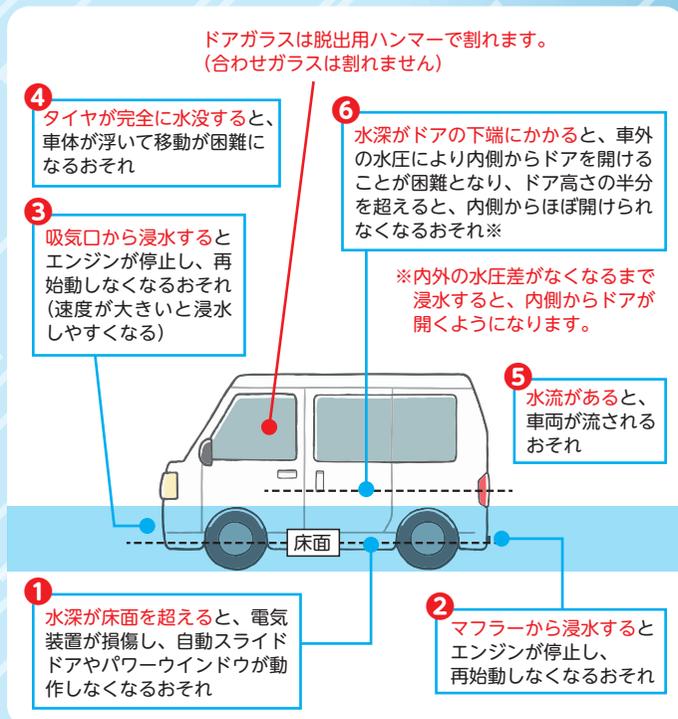
豪雨対策

防災知識 冠水・水没リスクの回避

都市部等では舗装面積が多いため、線状降水帯による豪雨が発生すると、周囲より低い場所では雨水の排水処理能力が限界を超え道路が冠水することがあります。【内水氾濫】国土交通省、自治体等が公表している東北地方の冠水想定箇所*は350箇所あり、身近な所に危険が潜んでいます。

※道路や鉄道などの下をくぐり抜ける様に通っているアンダーパス等、周より道路の高さが低く、豪雨により冠水し、車両が水没する等重大事故が起きる恐れのある箇所。 国土交通省「道路防災情報 web マップ」

クルマは**想像以上に少ない水位**で機能不全に陥りますので、車両への具体的な影響を正しく理解しておきましょう。



災害発生 冠水・水没時の対応

回避できず冠水道路を走行する場合は、水深が急速に増していく恐れがありますので、決して無理をせず、

- ①アンダーパスには入らない。
- ②前車の水飛沫、急停車を想定し、車間距離を十分に取る。
- ③水を巻き上げない様に速度を落とし、ゆっくり進む。

ように注意しましょう。

冠水道路で停止・水没した場合は、先ず落ち着いて、シートベルトを外し、ドア・窓を開け、早めに脱出します。

もしも**脱出不能の場合**は、

- ①シートベルトが外れない⇒専用カッターで切断する。
- ②ドアが開かない⇒浸水(内外の水圧差減)を待ち脱出する。
- ③窓が開かない⇒ドアガラスを緊急脱出ハンマー*で割る。

をすれば脱出することが出来ます。

※シートベルトカッター付緊急脱出ハンマー等を手の届く場所に準備しておきましょう。



防災知識 スリップリスクの回避

冬の運転は、路面凍結(アイスバーン)に気を付けましょう。放射冷却等で路面温度は気温より3℃~5℃低い為、気温が氷点下ではなく、5℃以下で路面凍結が発生する可能性があります。路面凍結には下記3種類があります。

【ミラーバーン】
圧縮された雪がタイヤで磨かれ鏡の様な状態。交差点付近で発生し易い。



【圧雪アイスバーン】
雪が踏み固められて圧縮された状態。夜間に気温が下がると発生し易い。



【ブラックアイスバーン】
水と判別が困難な薄い氷で覆われた状態。路面が濡れて気温が下がると発生し易い。



雪道走行と安全運転

次のポイントに注意し慎重な運転を心掛けましょう。

- ①急ハンドル・急ブレーキをしない。
ハンドル操作は小刻みに切る、ブレーキはソフトに踏む
- ②スピードを十分に落して、等速走行をする。
急発進・急加速は避け、轍やタイヤの跡に沿って走行する
- ③車間距離を十分に取る。

降雪時や地吹雪で視界が悪い場合は、決して無理せず、安全な場所に一時退避し、天候回復・視野が確保出来るまで待つ。

豪雪対策



災害発生 豪雪・ホワイトアウト・渋滞時の対応

気象情報で暴風雪が予想される場合は、クルマでの外出を避けるのが賢明ですが、万一に備え車内には防寒着・長靴・手袋・スコップ・牽引ロープ等を常備、飲料水・非常食を携行、燃料を確認しましょう。

特に**地吹雪を伴う“ホワイトアウト”の場合**は、視界が数10cm先も確認できず、前後・左右・上下の感覚を失いますので、

- ①ハザードランプを点灯して停車し、多重追突を回避する。
- ②マフラーの排気口が雪で塞がれると一酸化炭素中毒になる危険性があるので、救援を待つ間は、マフラーの周辺・排気ガスの逃げ道だけでも除雪を行う。
- ③**完全に雪に覆われた場合**は、エンジンを停止し毛布等で暖をとり、時々風下側の窓を1cm程度開け、換気を心掛ける。

ように注意しましょう。

また**身動き不能の場合**は、直ちに「道路緊急ダイヤル」(#9910)やJAFの救援(#8139)、警察への通報を行いましょう。